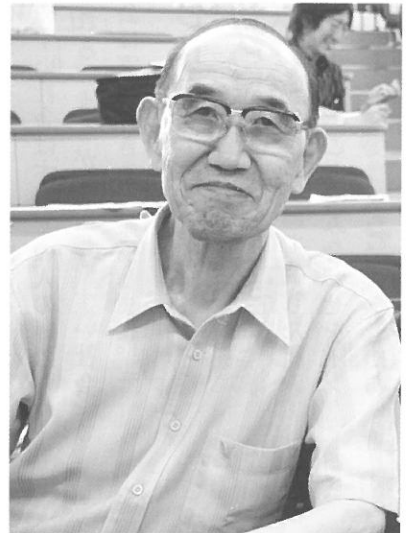


「労働」と「人間発達」を探求して

社会福祉法人
ゆたか福祉会理事長 鈴木清覚



秦安雄さん

はた やすお / 1931年～2016年
愛知県生まれ。名古屋大学教育学部、同大学院で学ぶ。日本福祉大学名誉教授。専門は教育心理学・障害者福祉論。ゆたか共同作業所づくりにかかわり、ゆたか福祉会理事長や全障研副委員長・顧問などを歴任。著書に『障害者の発達と労働』（ミネルヴァ書房）など。

1945年8月7日の100機を超えるB29の大編隊による大空襲によって工場は壊滅的に破壊され2500人以上の死者を出しました。秦さんは夜勤で宿舎に帰っていて九死に一生を得たとのこと。この悲惨な体験をふまえ「戦争を知らない軍国少年が憲法9条を変えようとしている。これを止めなければならぬ岐路に立っている。」（「ゆたか福祉会広報」No. 392号）との痛切な訴えでした。

私たち障害者問題にとりくむ全関係者はこの先人の訴えに応えねばとの思いを強くする昨今です。

（すずき せいかく）

秦さんは1931年に生まれ、三河の新城の地で多感な少年期・青年期を過ごしています。それは、日中戦争、第二次世界大戦のさなかのことです。やがて名古屋大学教育学部に進み心理学を学んでいます。大学院卒業後、開学間もない「中部社会事業短期大学」（後の「日本福祉大学」）に助手として就任します。それからほぼ半世紀（46年間）大学での学部長等を歴任し、大学の民主的運営と発展に尽力されています。この間、1967年の全国障害者問題研究会の結成に参加し、田中昌人さんや清水寛さんの発達保障論に強い影響を受け共感し、その後、発達保障と障害者問題の研究にとりくむことになります。

もうひとつの大きな契機は、全国でも名古屋の地においてもはじまりつつあった障害児教育の展開において、浦辺史さんらとともに卒業後の大きな不安を抱える親や教師の相談にのり、後に日本で最初の共同作業所となる「ゆたか共同作業所」（1969年の設立）を支援し運営を担うことになります。作業所運動の全国展開に強い影響を与え、全国組織の共同作業所全国連絡会（現「きょうざれん」）の結成に貢献します。こうし

た経緯もあり、秦さんの研究テーマとして、障害者の働く権利の保障と発達論を結びつけた研究を生涯のテーマとしていくことになります。

日本福祉大学退任後も10年あまり、中部学院大学で教鞭をとっています。まさに生涯を障害者問題にとりくむ学生の育成に尽力し、多くの人々を全国に輩出してきました。

*

秦さんとの出会いは、私がおはじまって間もないゆたか共同作業所や、みのり共同作業所に働きはじめたころ現場に時折、顔を出していた先生に、支援の相談に乗っていただいたことがはじまりです。本格的には、私が全障研運動に参加し愛知支部の事務局活動を担うようになってからです。当時の愛知の事務局は、まだ名古屋の杖中^{いりなか}に大学があったころ、毎週のように秦研究室に集まり活動がとりくまれていました。秦さんはいつも笑顔を絶やさずみんなの話を楽しそうに聞かれていた情景が思い出されます。

秦さんの私たちへの最後の強いメッセージは平和問題でした。それは、秦さんが中学3年のとき、東洋一と言われた豊川海軍工廠^{こうしょう}での学徒動員での体験にもとづくものです。